

まだ 4 月ですが、日中はすでに暑い日があり、今年の夏も猛暑が予想されています。人の健康に重大な被害が生じるおそれがある暑さが予測された場合に発表される、「熱中症特別警戒アラート」の運用が今年の 4 月から始まりました。こまめな水分補給や冷房機器の活用などの熱中症対策は取りますが、加えて「熱中症予防情報サイト」の「暑さ指数（WBGT）の実況・予測」と照らし合わせながら、校内の WBGT 計測により以下の対応を取ります。

- 熱中症特別警戒アラートが発令された場合
※大分県内 14 すべての地点で WBGT の予測値が 35 を超える可能性は極めて低い
- 学校の WBGT 計測器が 35 以上を示した場合

冷房機器のない教室以外でのすべての活動を中止

- 学校の WBGT 計測器が 31 以上 35 未満の場合

体育館・グラウンドでの運動を中止

気温の目安	暑さ指数 (WBGT)	
35℃以上	31以上	運動は原則中止
31～35℃	28～31	厳重警戒 激しい運動は中止
28～31℃	25～28	警戒 積極的に休憩
24～28℃	21～25	注意 積極的に水分補給
24℃未満	21未満	ほぼ安全 適宜水分補給

環境省の資料から作成

7 年生の夏服が 5 月 1 日の受け取りだと聞いています。それまでの間、体育服を着用しても構いません。服の組み合わせは自由とします。(例) ①上：夏の体育服 下：冬の体育服 ②上：夏の体育服 下：制服
天気予報を参考にしながら、状況に応じて自分で組み合わせを考えて欲しいと思います。

本校の研究主題（授業に臨む指針となるもの）

主体的に課題解決に向かう力を育む、
学習指導の在り方
～生徒指導の 3 機能を活用した授業を通して～

教科担任は授業で以下の 4 点を意識します。

- ①課題解決の場を設定する
- ②生徒の思考に沿った課題を提示する
- ③生徒指導の 3 機能（※）を取り入れた展開を行う
- ④対話を柱とした協働的な活動を取り入れる

その結果、「主体的に課題解決に向かう力を育成することができる。」と考えて取り組みます。

※生徒指導の 3 機能を意識した授業とは

「授業の場で児童生徒の居場所をつくる」
「わかる授業を行い児童生徒の主体的な学習態度を養う」
「児童生徒に共に学び合うことの意義と大切さを実感させる」

等を意識した授業です。授業は、学校生活の基本であり、児童生徒の信頼関係を築く場になります。友達を受容する雰囲気の中、一人ひとりの児童生徒が自分の考えを持ち、交流活動を通して認め合ったり、みんなの前で表現したりする授業は、児童生徒の自己有用感、自己肯定感、自己存在感の向上が期待できます。

<大分県教育センター 授業改善 Q & A からの抜粋>

7 年生の入部が確定し、活動も本格化します。部活動の目的は、「心・技・体」を鍛えることです。各種大会で優勝することや上位大会への出場・優勝を目指すことなどは、目標であって目的ではありません。本校教職員にも、目的と目標を間違えないように、部活動を通して「心」と「技」と「体」を鍛え、人間形成の一端として部活動を運営するようにお願いしています。この部活動に取り組む、日常の姿勢こそが「全力燃焼」にならなくてはならないと考えています。「全力燃焼」の結果が、目標とした「優勝」や「県総体の出場」などにつながることが理想です。

ただ、この部活動については、地域展開への過渡期を迎えることになります。数年後には学校から「部活動」がなくなります。完全に地域展開するまでは、従来通りの「日田市中体連の申し合わせ」や「部活動規定」に則り活動します。

- 休日は、3 時間を超えない時間設定をする。
- 原則として土曜、日曜のいずれか 1 日は休養日とする。
ただし、土・日に連続して大会があった場合や市総体 1 ヶ月前の練習試合を行った場合は、月曜日の練習を休むなど週 2 回の休養日を設定する。
(水曜日は、原則休みです)

※部活動に係る経営方針を学校 HP
に掲載していますので、ご覧ください